

災害への対応「御所見地区の災害対応におけるふくしの種別を超えたネットワークづくりについて」

社会福祉法人 光友会

住所／TEL	神奈川県藤沢市瀬郷1008-1 / 0466-48-1500
URL／E-mail	http://www.lfa.jp / sks@lfa.jp
経営理念	<p>《基本理念》</p> <p>障害者には、同世代の健常市民と同様の『当たり前の生活を営む権利』、すなわちあらゆる面での、「完全参加と平等」の権利がある。これを保障するためには、すべての面での条件整備が必要である。</p> <p>〈3つの目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉施設にありがちな「隔離と管理」から脱皮するため、職員・利用者・地域住民の意識改革に努めるとともに地域福祉の核機能を果たしてゆく。 2. 障害者への差別と偏見を除去し、障害者の学習権・労働権・生活権を保障してゆく。 3. 「平和は福祉の基礎」「福祉は平和のシンボル」であることを身近なところから裏付けし、これを支える福祉運動を推し進めてゆく。
事業内容	<p>地域生活部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者支援施設（旧身障療護）（60名）（短期入所事業18名）1ヶ所 ・生活介護事業（20名）1ヶ所 ・通所介護事業（20名）1ヶ所 ・障害者相談支援事業 1ヶ所 ・視覚障害者訓練事業（藤沢市委託）1ヶ所 ・高次脳機能障がい者相談支援事業（藤沢市委託）1ヶ所 ・GH・CH（24名）4ヶ所 ・児童デイサービス（10名）1ヶ所 ・居宅介護・同行援護・移動支援事業、訪問介護・訪問リハビリ・居宅介護支援事業 ・地域包括支援事業 1ヶ所 <p>就労支援部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援事業（29名）2ヶ所（点字印刷、オフセット印刷、製パン、農作業、 ・就労継続支援A型（10名）1ヶ所 軽作業、テーププリント、製麺、豆腐、 ・就労継続支援B型（97名）2ヶ所 レストラン、ハウスクリーニング、軽作業エコ等） ・福祉的就労協力事業（市営体育館内レストラン70席）・福祉ショップ（スーパー店内コーナーにて県内作業所製作品の販売） <p>指定管理事業（藤沢市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学齢前障害児通園事業（60名）1ヶ所 ・生活介護事業（知的）（60名）1ヶ所 ・障害者スポーツ体育館運営委託事業 1ヶ所 ・児童デイサービス事業（10名）1ヶ所 ・日中一時支援事業（40名）2ヶ所 <p>横浜市委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人型障害者地域活動ホーム （相談支援、障害者日中活動支援50名、ショートステイ4名・一時ケア、おもちゃ文庫、余暇活動支援、地域交流・ボランティア活動支援等）1ヶ所

収入 (法人全体) 平成23年度決算	①社会福祉事業 ②公益事業 ③収益事業 合計	1,889,772,187円 円 円 1,889,772,187円
従業員数 (法人全体)	327名 (非常勤含む)	
当面する経営課題	1. 人材育成 (職員の活性化、法人内研修体制の見直し、企画職会議の継続等) 2. 法人使命の推進 (1 外部理事に各事業所の状況把握と情報交換、法人に進言) 3. 就労部門の改革 (新たな障害者雇用の取り組みと新事業の具体化等) 4. 地域生活部門の再整備・再編成 5. 新会計の実施に伴い、20経理区分を超える会計処理などプロジェクト協議が必要 6. リスクマネジメントの在り方の検討 7. 各事業所の状況把握と利用者サービス向上に向けた目標の明示、タイムスケジュールの作成と実施	
発表する取組みに着手した理由、背景	<p>2011年3月11日に起きた東日本大震災は、現在に至っても余りに大きな被害をもたらし、いつ、どこでも近いうちに大地震、大津波、大水害などの発生の可能性があり、その時の被害を最小限に食い止め、どのような困難な状況のなかでも最善の対処ができるようにするべきことが良いということ気付かせました。</p> <p>従来から、地震対策として市民を対象に災害訓練は各地区で行われていますが、福祉関係の利用者の安全確保は、各法人・事業所に任されています。また、県内の各協議会ごとに災害対策のための講習会や東日本被災地支援への取り組みが為されてきました。こうした災害対策は、多く見かけられますが、顔の見える範囲での地域にある福祉関係事業所での交流やネットワーク化への取り組みは数少ないのではないかと。このような中で、昨年、6月「シンポジウム～災害対策における種別を超えた福祉ネットワーク作りについて」の必要性を藤沢市内各法人理事長・施設長に呼びかけ、約150名の参加の下で意見交換をしました。そして、9月から毎月1回、当法人を事務局として、藤沢市内13地区の一つである御所見地区にある11事業所で「災害対策における福祉の種別を超えたネットワーク作りについて」の勉強会を開始しました。</p> <p>この勉強会の1年間の取り組みは、様々な災害対策の一つとしての気付きに多くの示唆があり、今回の事例の応募となりました。</p>	
発表する取組みの現時点での効果	①市内13地区の、1地区内で種別を超えた福祉事業所長が集まり、共通テーマで1年間継続し、今後は、3ヶ月に1度の勉強会とした。 ②各法人・事業所での災害対策の取り組みについて、備蓄品などの資料の作成や、職員の体制について情報交換し、具体的な取り組みに生かされた。 ③各事業所ごとに集まりを持ち、このようことがあって特養、老健、認知症グループホーム、ミニデイ、地域包括、保育園、旧身障療護施設、就労支援センター等の見学の機会ができた。 ④1年間の経過を以て、7月30日「シンポジウム 災害対策福祉ネットワークづくり・御所見地区の取り組み～藤沢北部と中・南部からの発信～」を開き、約70名の参加者があった。 ⑤当法人の夏祭り(8/26)に勉強会参加の「認知症GH」の皆さんが遊びに来られた。 ⑥9月に、勉強会参加の特養に、近隣3自治会から災害対策での相談の申し出があるとのことで、当法人としても参考に聞くことができる。	

「藤沢市・御所見地区の災害対策における福祉の種別を超えたネットワークづくり」

社会福祉法人 光友会
地域生活部長・理事 本谷 守

1. はじめに

2011年3月11日に起きた東日本大震災は、現在に至っても余りに大きな被害をもたらし、いつ、どこでも近いうちに大地震、大津波、大水害などの発生の可能性があり、その時の被害を最小限に食い止め、どのような困難な状況のなかでも最善の対処ができるようにするべきことが良いか、ということを気付かせました。

従来から、地震対策として市民を対象に災害訓練は各地区で行われていますが、福祉関係の利用者の安全確保は、各法人・事業所に任されています。また、県内の各協議会ごとに災害対策のための講習会や東日本被災地支援への取り組みが為されてきました。

こうした災害対策は、2005年阪神・淡路大震災以降の取り組みとして多く見かけられますが、普段から地域内の高齢、児童、障害等の種別を超えた福祉施設間のネットワークづくりができていれば、災害時の協力態勢もできるのではないかという発案を、昨年5月、当法人五十嵐紀子理事長からお聞きし、先ず、自前で福祉施設・事業所利用者の安全確保と地域の要援護者支援への役割の具体化など、どのようにしていけばよいかという方策として、この1年間どのように取り組んだか報告をし、さらに当法人として今後の取り組みをどのようにすべきか考えたいと思います。

2. 2011年6月28日「シンポジウム：災害対策における種別を超えた

福祉ネットワークによる体制づくりについて勉強会へのお誘い」の実施

日時 2011年6月28日(火) 16:00～18:00 (15:30より受付)

場所 藤沢市産業センター6階研修室

定員 120名(最大180名)

シボジウ 藤沢災害救援ボランティアネットワーク 理事長 森井 康夫 様
被災地入りした福祉施設職員(各団体より保育士・介護支援専門員
障害施設職員 3名)
司会進行 本谷 守(事務局)

呼びかけ人 神奈川県高齢協福祉施設連絡会会長 川瀬 和一(藤沢養護老人ホーム施設長)
社会福祉法人上村鶴生会理事長 番場 定孝
藤沢市民間保育園設置法人代表者会会長 加藤 隆次(亀井野保育園園長)
社会福祉法人高谷福祉会理事長 柘居 祐三
藤沢障害福祉法人協議会会長 米村 洋一(藤沢育成会理事長)
社会福祉法人光友会理事長 五十嵐 紀子
事務局 社会福祉法人光友会理事・地域生活部長 本谷 守
藤沢市瀬郷1008-1 電話 0466-48-4500 FAX 0466-48-7747

・参加者は、藤沢市内16の民間保育園、41の高齢者施設、21の障害施設から各代表者や職員など約150人が集まった。被災地入りした福祉施設職員3名に現地での経験をもとにお話ししていただいたが、福祉施設間の連携することの重要性について話した。

今後、市内13地区でそれぞれが種別を超えて福祉間のネットワーク化の推進を提言した。



3. 御所見地区の災害対策における福祉の種別を超えたネットワークづくりについて

2011年9月から勉強会開始

<御所見地区「勉強会」参加事業所>

- 1 白鷺苑（特養）・一樹荘（通所介護） 2 御所見地域包括支援センター 3 ケアプランセンターえんじゅ
4 御所見愛児園（保育園） 5 湘南希望の郷（旧身障療護施設） 6 神奈川ワークショップ（就労支援）
7 湘南希望の郷ケアセンター（生活介護、通所介護、GH・CH、相談支援等、居宅介護、訪問介護等）
8 ガーデニア・ごしょみ（老人保健施設） 9 借老ホーム（認知症 GH）
10 御所見の家すこやか（通所介護等） 11 サンライズ・ガイ 藤沢湘南台（有料老人ホーム）
12 光友会（事務局 本谷）

.....

第1回勉強会 報告

日時 2011年9月27日（火）14:00～16:00
場所 御所見愛児園会議室（住所 藤沢市用田569）
参加者 御所見地区10事業所

- 1) 自己紹介（各事業所）
- 2) 情報交換（抜粋）
 - ・入居者分の食料備蓄（3日分）はあるが、施設外地域分の備蓄は用意されていない。
 - ・施設内の災害対策の備蓄品などがどこにあるか全職員で周知確認した
 - ・御所見地域包括支援センターで以前、要援護者として申し出諾否のアンケート調査をした。3割ほどの希望者があった。
 - ・「3.11 地震・津波」は今までの意識を大きく変えるものになった。どのように対処すべきか、施設内で検討中
 - ・地域密着型の GH（グループホーム）で地域自治会に加入したが、地域との連携がはっきりしていない
 - ・「3.11」の実情把握が必要。災害当日の連絡方法は。津波が来なかった所はどうだったかなど。
- 3) 今後の進め方
 - ①御所見地区の各福祉事業所での顔合わせから、今後、福祉間での災害対策のネットワークづくりをどのようにしていくか、検討していく。
 - ② 災害対策についてお互いに知り得たこと、各事業所で取り組みしたことなどの情報交換をしていく

.....

第2回勉強会 の報告

- ・日 時 2011年10月25日(火) 14:00~16:00
- ・場 所 湘南希望の郷(住所 藤沢市瀬郷1003)
- ・参加者 御所見地区以外に、光友会障がい福祉センターひかり(辻堂)
神奈川県社会福祉協議会(社会福祉施設・団体担当)

1) 陸前高田市 障害者入浴支援(9/25~10/2)報告(湘南希望の郷溝渕施設長)

2) 情報交換(抜粋)

- ・「非常食というカンパンや氷ざとうなど実際に役立たない」という本が出版された。飲料水も貯水槽を活用すべき方法も検討の必要あり
- ・公的な防災無線設置がなされても「3.11」で活用されたのか不明
- ・保育園と避難所の支援についての想定はどうしたものか
- ・避難訓練実施で避難拒否する利用者がある
- ・停電時に自家発電機が無いと生命の危険性がある入居者ための対策の必要あり
- ・現在施設の自家発電機は、火災時の防火用水機動のためのもの。生活必需の電気稼働に、自家発電機設置は必要だが、施設で検討中

県社協大関さんより

- ・被災地では、通所施設でも避難者受付の申し出があったところあり。毛布の備蓄はしていなかったとのこと。食料の備蓄期間は、3日でなく7日分必要。かかりつけの病院が閉鎖したため、服薬の薬をどう受け取れるようにするか困っていた。などの情報提供あり

3) 今後の進め方

- ①御所見市民センターに設置されている自家発電機の機能などの確認
- ③ 次回、各事業所の非常用備蓄、備品一覧提出(12部)持参

.....

第3回勉強会 の報告

- ・日 時 2011年11月29日(火) 14:00~16:00
- ・場 所 ガーデニア・ごしょみ(住所 藤沢市瀬郷218)

1) 前回の確認等

- ・御所見市民センターの自家発電機は市民センター内で必要とする電気を稼働させるためのもので、酸素吸入など在宅の方への受け入れなど、事前の呼びかけはしない、とのこと。
- ・この勉強会での情報交換、資料などを活用して御所見地区内でのネットワーク作りが形となるように、月1度の定例会とし、事務局は光友会でしばらく続ける。御所見の家・すこやか(居宅介護支援・デイサービス)が今回から参加。サンライズ・ヴィラ 藤沢湘南台(有料老人ホーム)が次回以降参加希望あり。

2) 情報交換

- ・湘南希望の郷: 非常食メニュー、水(調理用含む) 78人(入居者60人、短期入所18人)3日分、加熱にカセットコンロ等説明。入居者の服薬6日分用意。空調機数台等が稼働できる自家発電機設置予定(県から助成金利用)
- ・白鷺苑: 介護職員も調理を実施、一口大、とろみなど必要に応じた対応可。扇風機、石油ストーブあり。
- ・湘南希望の郷ケアセンター: GH・CH(グループホーム・ケアホーム)10名の食料は、常にお米15kgがあるようにし、水は貯水槽を利用、おかずは塩分のある物を備蓄。
- ・水の確保として、「御所見地区防災マップ」に災害時雑生活用水として防災井戸のある場所が明示(44ヶ所点在)。(藤沢市としては、今後、井戸づくりの助成などはないとのこと)
- ・災害時、通所中、在宅利用者、入居者家族等の安否をどのように確認するか。
- ・藤沢障害福祉法人協議会(8法人)と藤沢市とで「災害時における障害者の緊急受入に関する協定

書」を締結しているが、「緊急受入の可能人員、災害時の支援者等の確保計画、必要物資の備蓄、調達等緊急受入の実施に必要な事項について協議を行い、調整を図る」ことなどについて、具体策はまだできていない。

- ・この勉強会の出欠については、各事業所それぞれ誰かが出席できるように代理者を決めるべき。

.....

第4回勉強会 の報告

- ・日 時 2011年12月19日(月) 14:00～16:00
- ・場 所 白鷺苑(住所 藤沢市用田820)

情報提供

- 1) 講演会：12/21(水)18:30～藤沢市産業センターにて「東日本大震災被災者が語る～石巻市渡波(ワハ)小学校避難所生活と仮設住宅の生活」
- 2) 防災セミナー12/24(土)13:45～16:45 藤沢市民会館小ホールにて実施
「災害に負けない町づくりをめざして」～災害要援護者も地域の支援者も、安心・安全の避難支援を～
主催 藤沢市福祉団体連絡会
- 3) 各事業所より(抜粋)
 - ・白鷺苑には井戸がある。自家発電機設置の申請をする。
 - ・福祉避難所(通常の避難施設での生活困難な場合)は、各地区市民センター・公民館になっている。
 - ・福祉施設の受入態勢のマニュアル化、地域との連携、情報収集の仕方などまだ未整備。
 - ・入所施設は地域から期待されているが、まだ、受入するための態勢ができていない。入居者以外の必要な食料備蓄、物品の用意は、予算、収納場所等未整備で今後の課題である。
 - ・GH・CH(光友会グループホーム・ケアホーム)、ヘルパー事業所の利用者対応は大丈夫といえるようにしているが、デイサービス利用者の帰宅困難時対応が課題となっている。
 - ・偕老ホーム：食料備蓄は多めに保管したが、今後保管場所をどこにするか検討中。
 - ・愛児園では、3.11のときは、2時間内で保護者のお迎えがきた。今後、地域の人へ保育園としての対応は不確定で今後の課題となる。

.....

第5回勉強会 の報告

- ・日 時 2012年1月31日(火) 14:00～16:00
- ・場 所 偕老ホーム(住所 藤沢市打戻1896)

各事業所より(抜粋)

- 各事業所作成「備蓄・備品一覧」について紹介(資料参照)
 - ・2/8 自家発電機納入一動力用可能(重量200kg)、200リットル燃料をドラム缶に保管(メンテナンスが必要)。多くの職員は炊き出しの経験なし(必要物品購入の予定)。紙おむつ100～120人分を分散して備蓄。近隣の方達の受入態勢不十分(毛布なしなど・・・)
 - ・備蓄用倉庫が手狭のため、収納庫を新たに検討
 - ・宿泊する場合の毛布、ロールマットが必要。余裕ある倉庫がない、どこに何があるか誰でも解るようにしなければならない
 - ・近隣の人の避難の受入をどのようにするべきかはっきりしていない
 - ・宿泊がないので備蓄としての用意なし
 - ・避難所で不適合な方への対応をどのようにするべきか、今回の震災で受入した施設の具体例はあるか知りたい
 - ・懐中電灯よりもランタンは周りを照らし明るい

.....

第 6 回 勉強会 <報 告>

日 時 2012年2月28日(火) 15:00~16:30
場 所 神奈川ワークショップ(住所 藤沢市瀬郷 1008)

○被災地支援報告(神奈川ワークショップ 中野所長)

2/5~2/12 陸前高田市内在宅障害者対象 入浴介助等支援、仮設住宅訪問、

○平成23年度災害支援者実践交流会(H24. 2/25)参加報告(本谷)

「横須賀市災害時要援護者支援プラン」次回配布

①情報交換

- ・1月各事業所作成「非常用備蓄・備品一覧表」を見ての意見交換
- ・3日間の備蓄で足りるのか、それ以上の量の置き場所がない
- ・地元消防団と普段からの交流は必要(避難訓練の見学などを要請)
- ・避難訓練で消費期限間近の備蓄食品を利用すべき
- ・各自治会との「協定」作りなど、必要となるのか
- ・連絡方法、必要な物など具体的な順位付けが必要
- ・(ケアネ)利用者の安否確認のマニュアル化など整備すべき事がある
- ・先日、消防署の立ち入りで、先ず職員が怪我しないよう洗いの戸袋の扉に鍵の取り付けなどアドバイスがあった
- ・入居施設は、避難所での対応が困難な地域住民が来られるのではないかと、どう対処すべきか対策を行政とも検討が必要、協定の具体化などどうなるのか

- ・今回は、御所見地区防災組織連絡協議会会長をお呼びし、お話を聞き、意見交換を予定したい(事務局で打診)

.....

第 7 回 勉強会 報告

日 時 2012年3月28日(水) 14:00~15:30
場 所 御所見愛児園(住所 藤沢市用田 569 tel 48-1070)

○御所見地区防災組織連絡協議会会長・副会長、御所見地区経営会議副部長と意見交換
(資料参照)

- ・福祉施設に避難しなければならない地域住民への対応策を早く作成して欲しいとの要望を強調された。

.....

第 8 回 勉強会 <報 告>

日 時 2012年4月24日(火) 14:00~15:30
場 所 湘南希望の郷(住所 藤沢市瀬郷 1003 tel 48-4500)

- ・湘南希望の郷自家発電機紹介
燃料 軽油 190㍓ 4カ所の場所の空調機各2台分が稼働(脱水症状等防止)約1300万円
(工事費込み、450万円助成金利用)
- ・特養等高齢者の協議会と藤沢市との協定書(H18.4.1)についての変更は、H25年までの県との取り決め後になるとのこと(白鷺苑)

- ・法人の企画職（課長・課長補佐等）内で災害対策でのマニュアルづくりをしている
 - ・災害について、地震想定が主になっているが、富士山の噴火が起きる可能性なども想定すべきか
 - ・近隣自治会と5月に話し合いをする。（分担づくり、連絡方法などについて）、防災訓練は実地に即して実施（リーダー・サブリーダーの役割を設定、非常食を調理した）
 - ・新年度で新規利用者の情報確認、他の園児も4月中に再調査
 - ・今後、井戸掘りや1室のエアコンが非常時に稼働できるよう検討
 - ・独居で外出しない高齢者の確認予定（アンケートの実施）（地域包括支援センター）
 - ・通所介護が休止のときの昼食がない場合、帰宅したとき家族が不在など、不都合の想定を考え、利用者の家族構成など今後の取り組みをしていく
- 次回・・・「御所見地区福祉ネットワークづくりのための勉強会」の取り組みについての報告会を検討

.....

第 9 回 勉強会 <報告>

日 時 2012年5月23日（水）14:00～15:30

場 所 ガーデニア・ごしょみ（住所 藤沢瀬郷 218 tel 47-0580）

- ・今回から、サンライズ・ヴィラ藤沢湘南台参加
- ・各事業所間の連絡網を作成したが、メールアドレスも入れるようにとの意見あり（事務局で作成）

○ 情報交換

- ・湘南希望の郷各部署（職種別）にて、「職員行動チャート」作成中
- ・緊急時対応のマニュアル（連絡網・連絡法・救護法等）作成中
- ・職員の自宅から事業所までどの位時間をかけて来れるか、調査実施
- ・緊急時に対応すべき機器類の操作法、備蓄・備品倉庫の所在、消防署連絡法など確認と、「フローチャート」作成中。備蓄用倉庫は今以上置き場所がないので、検討中
- ・BCP（business continuity plan）を検討
（*BCPとは、事業継続計画企業がビジネスコンティニューイティに取り組むうえで基本となる計画のこと。災害や事故などの予期せぬ出来事の発生により、限られた経営資源で最低限の事業活動を継続、ないし目標復旧時間以内に再開できるようにするために、事前に策定される行動計画である。）
- ・月1回の避難訓練を実施。起震車で大地震の体験ができるように、実体験実施をしたい
- ・独居高齢者が緊急時に誰に助けを呼べるか、調査中（御所見地域包括支援センター）
- ・不在時の職員との連絡がいつでもできるようにしたい。この「福祉ネットワーク」での協定書作りができればよいが
- ・グループホーム（GH）では、常時、米・水を3日間以上あるようにしているが、GH4カ所の支援体制や、当地域福祉部内に多種の事業所があり、共通のもの作りを検討
- ・昨年3.11の地震があったとき、4階にいたがどのように行動すべきか戸惑った。それから、4階の入居者全員を内階段で1階に下りるのに20～30分掛かった。年4回の避難訓練を実施
- ・和歌山県の災害時の要援護者対策マニュアルの項目には、地震だけでなく風水害の場合の項目がある。御所見地区の災害の地域性は何か、長い歴史上を参考にすべき。また、停電、断水などライフライン対策は具体化が必要。
- ・避難所で長時間いられない高齢者・障害児者の居場所をどうするか、まだ、不確定。

.....

第 10 回 勉強会 <報告>

日 時 2012年6月26日(水) 15:30~17:00
場 所 御所見の家(住所 藤沢用田 653-1 tel 49-1155)

○NHKハートフォーラム「東日本大震災 そのとき福祉現場は」(6/10)参加報告
情報交換

- ・通所事業所(就労支援)だが、災害時には、利用者、職員が宿泊する場合を想定して、そのための必要物品の用意を検討
- ・入所施設だが、地域自治会と9月に話し合いを持つ
- ・事業所に、地域の方が気楽に寄れる場(テラスカフェ)を作った

○7月30日の明治市民センターでの「御所見地区福祉ネットの取り組みの報告会」について意見交換
.....

4. 2012年7月30日「シンポジウム 災害対策福祉ネットワークづくり:

御所見地区の取り組み～藤沢北部と中・南部からの発信～

日時 2012. 7. 30(月)
場所 明治市民センター4階ホール
(藤沢市辻堂新町 1-11-23)

司会進行 本谷 守(事務局 光友会)

- 14:00 シンポジスト紹介 小松 永一 氏(特別養護老人ホーム 白鷺苑)
溝渕 崇 氏(障害者支援施設 湘南希望の郷 施設長)
渡邊 誠 氏(特別養護老人ホーム 鶴生園ケアセンター 所長)
椎野 幸一 氏(御所見地区防災組織連絡協議会 会長)
- (敬称略)
- 14:10 本谷・・御所見地区の災害対策として、種別を超えた「福祉ネットワーク」づくりの取り組み(昨年9月～今年6月まで10回)・経過報告(資料配布)
- 14:15 小松・・特別養護老人ホーム白鷺苑の災害対策及び一石会の災害対策
・・御所見地区「福祉ネットワーク」について～これからの災害対策
- 14:25 溝渕・・障害者入所施設湘南希望の郷の災害対策及び光友会の災害対策
・・御所見地区「福祉ネットワーク」について～これからの災害対策
- 14:32 渡邊・・海に面した施設「鶴生園」(藤沢市片瀬海岸 1-7-9)としての災害対策
- 14:45 椎野・・御所見地区防災組織連絡協議会の取り組みと、行政サイド及び御所見地区の災害時要援護者への対応について
- 14:55 質疑応答
本谷・・地区内福祉施設間での災害対策と地域での災害時要援護者への対応について避難所生活に馴染まない家族・当事者への対応の課題等
- 15:10 <市内各協議会等から情報提供など依頼>
神奈川県高齢福祉施設連絡会会長 川瀬 和一 氏(藤沢養護老人ホーム施設長)
- 15:15 藤沢障害福祉法人協議会事務局長 小林博氏(藤沢育成会・湘南セリア副施設長)
- 15:20 小川陽氏(知的・発達障害児者障害者相談支援等 みらい社施設長)
- 15:25 戸高洋充氏(精神障害者相談支援等 ひまわり総合施設長)
- 15:30~40 小松 溝渕 渡邊・・シンポジウムに参加して
- 15:45 椎野・・シンポジウムに参加して

15:50 本谷 まとめ (各地区内の福祉ネットワーク作りと市内北部～南部の協力)

15:50 休憩 (第2部支度)

16:00 (第2部) NTTによる災害用伝言ダイヤル171の説明と実演 (約30分)

16:30 終了 (携帯電話を利用)

<7/30 シンポジウム報告>

東日本大震災が起きてから1年4ヶ月近くが過ぎました。この間、藤沢近辺に直下型の大地震の到来が喧伝されるなか、「シンポジウム 災害対策福祉ネットワークづくり：御所見地区の取り組み～藤沢北部と中・南部からの発信～」が、明治市民センターにて、7月30日(月)14:00から70名ほどの参加者のもとで行われました。

このシンポジウムは、昨年、6月28日に150名ほどの参加者のもと実施した「藤沢市内の児童、高齢、障害福祉担当者による被災地支援活動をもとにしたシンポジウム」を参考に、「藤沢市内各地区で種別を超えた福祉ネットワークによる体制づくり」の重要性を考え、御所見地区内の光友会に事務局を置き、9月から毎月1回の種別を超えた11の福祉事業所で勉強会を積み重ねてきた経過のなかで企画されました。

シンポジストとして御所見地区内の特別養護老人ホーム白鷺苑事務局 小松 永一氏と障害者支援施設湘南希望の郷施設長 溝渕 崇氏から、「勉強会」に参加することで11事業所間初めて顔合わせができ、各事業所がどのような備蓄物品の種類や数量の用意をしているかなど災害対策の情報交換をもとに、災害時には施設利用者対応以外に御所見地区の特性も踏まえて地域での役割はどう対処することができるのか等々、10回に及ぶ経過と今後さらに有益な勉強会にしていく期待を述べました。

次に、片瀬地区にある特別養護老人ホーム鶴生園ケアセンター所長渡邊 誠氏の話では、一昨年、100名の入居者・職員以外に福祉避難所の役割として、広域避難所では困難を強いられる高齢者など要援護者80人の受入計画してきたが、昨年の3.11の津波の大被害を知って、改めて災害対策の見直しをしなければならなくなり、先ず入居者、通所利用者などをどのように、どこに避難させるべきか、様々な想定への対処方法を述べられました。

さらに、御所見地区防災組織連絡協議会 会長椎野 幸一氏から、大地震があっても生きていなければ人を助け支援できないこと。地震発生後3分間の自主防災がいかに大切か、そして、共助が当たり前のようにできるように、地域での避難訓練だけでなく、普段からお祭りやイベントの企画をとおしてお互いが知り合い、被災時の助け合いがし易いようにしていくことなどを話され、福祉施設への期待では、地域の特性を生かして要援護者を支援してほしいと述べられました。

このような御所見地区からの「発信」に続き、神奈川県高齢協藤沢地区福祉施設連絡会代表 川瀬 和一氏(藤沢養護老人ホーム施設長)、藤沢障害福祉法人協議会事務局長 小林博氏(藤沢育成会・湘南シリア副施設長)、小川陽氏(知的・発達障害児者障害者相談支援等 みらい社施設長)、戸高洋充氏(精神障害者相談支援等 ひまわり総合施設長)、各団体・事業所のリーダーから、市内高齢者、障害者施設各協議会の取り組みや、各種障害者相談支援事業所等からの取り組みなどお話をいただきました。

2時間のシンポジウムでは、御所見地区での取り組みの継続と、藤沢市内各地区で、「種別を超えた福祉ネットワークによる体制づくり」のため、呼びかけ人の設定、第一回目では顔合わせの挨拶とともに、進行役としてどこが事務局となるか、例えば、各地域包括支援センターの母体法人で引き受けてはどうか、との提言と、「各地区の種別を超えた福祉ネットワーク」間の定期会合ができれば、市内海側と山側との施設間協定ができるとよいことなどの提言をもって終了しました。

引き続き、会場全員で、第2部のNTT職員3名による災害用伝言ダイヤル171の説明と実演(約30分)に参加したが、うまくできない人へのアドバイスが直接受けられることで好評でした。

本谷 守 (事務局 光友会)



御所見地区の災害対策における福祉の種別を超えたネットワークづくりについて

第11回 勉強会

日 時 2012年8月28日(火) 14:00～15:30

場 所 御所見市民センター 2階 第一談話室

1. 情報交換
2. 7月30日のシンポジウム「災害対策福祉ネットワークづくり、御所見地区の取り組み～藤沢北部と南部から～」についての感想、今後の課題、継続、内容、回数等を検討

(第12回 勉強会は、3ヶ月後11月27日になる。この間、各法人・事業所での検討課題を集中してとりまとめ、情報提供できるようにする。)